

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和4年度第2回河内長野市文化財保護審議会
2 開催日時	令和5年3月2日(木)午後3時から
3 開催場所	河内長野市役所 7階 行政委員会室
4 会議の概要	<ul style="list-style-type: none">・報告第1号報告「令和5年度 事業計画」について・その他報告<ul style="list-style-type: none">・史跡金剛寺境内保存活用計画の策定について・河内長野市高向・上原土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査について・小野塚の五輪塔について・河内長野市の日本遺産事業の実施状況・河内長野版歳時記プロジェクト中間報告について
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部文化財保護課 文化財保護活用係 (内線748)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和4年度第2回河内長野市保護審議会議事録

日 時 : 令和5年3月2日(木) 午後3時から
場 所 : 河内長野市役所 7階 行政委員会室
出席委員 : 中村 浩 会長
北川 央 委員
山田 智子 委員
井上 剛一 委員
富島 義幸 委員
横川 昌史 委員

事務局側出席者 : 松本 芳孝 河内長野市教育長
小川 祥 河内長野市教育委員会生涯学習部長
伊藤 浩吉 生涯学習部文化財保護課長
太田 宏明 文化財保護課課長補佐
花井 徹 文化財保護課文化財保護活用係長
鈴木 志織 文化財保護課 主査
吉村 君子 文化財保護課 学芸員

案 件 : 報告第1号 報告「令和5年度 事業計画」について
その他報告
・史跡金剛寺境内保存活用計画の策定について
・河内長野市高向・上原土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査について
・小野塚の五輪塔について
・河内長野市の日本遺産事業の実施状況
・河内長野版歳時記プロジェクト中間報告について

報告第1号

報告第1号 報告「令和5年度 事業計画」について(事務局説明)

(中村会長)

現在の報告について、各委員ごとに意見が欲しい。

(北川委員)

施設の入館者の推移は？

(太田課長補佐)

コロナ禍でこの3年間は落ち込んでいるが、徐々に持ち直ししている。現在、団体見学なども徐々に再開しているので次年度も持ち直しの傾向は継続すると思われる。しかし、コロナ禍の影響を差し引いても、通年での基調としての傾向は、減少傾向にある。これは、施設の利用者の多くが地域や近隣の住民であり、人口減少とくに少子化が顕著であるためである。

(山田委員)

三日市交番の展示はどのようなことをしているのか？

(太田課長補佐)

年に3回常設展の展示替えを行い、年に2回特別展を行っている。展示の内容は、主に地域の旧家で所蔵されてきた文化財を展示している。

(富島委員)

だれが展示を担っているのか

(太田課長補佐)

三日市交番の展示では市の専門職員が協力して行っている。地域のボランティアも協力してあたっている。

(横川委員)

カヤ場の維持管理について年間を通じてどのような活動をしているのか？

(太田課長補佐)

4月に山焼き、夏から秋にかけて見回り、冬にカヤの刈り取りを行い、山焼きの直前に防火帯の設置などを行っている。

(井上委員)

高向上原地区の埋蔵文化財調査の予算は、次年度の市の予算に計上されているのか？

(太田課長補佐)

埋蔵文化財の調査は、開発者の負担であるので、事業者である高向上原地区土地区画整理組合が負担することになっている。

(中村会長)

先生方の意見を活用して欲しい。

その他報告

- ・史跡保存活用計画の策定について

〈事務局説明〉

(北川委員)

議案書 19p 本質的価値の部分、近世以降は寺院としての視点が抜けているのでは。戦後の歴史学では近世以降の宗教を軽視する傾向が顕著であったが、現在はそうではない。近世以降も金剛寺の本質的な価値・活動は宗教施設としてのそれにあることは違いのないのであるから、近世以降も寺院としての視点を加えるべきである。基本は保存管理計画を踏襲するということがあったが、今回の改定でその点を検討すべきではないか。

議案書 26p 委員の担当が「文献史学」になっているのを「歴史学」と修正してほしい。小谷先生も同様になっている。

(鈴木主査)

保護審名簿に合わせるようにする。近世の件はご指摘のとおり取り組むこととする。

(北川委員)

議案書 34p 史跡の概要、秀頼の復興事業と元禄の復興について触れていないが、重要な部分であるの

で入れるべきでは。中井家文書等に詳しく書かれているので参考になる。

(鈴木主査)

了解した。

(山田委員)

日本遺産等、中世の建造物ばかり注目されているが、近世近代の建築についての研究はどうか。観心寺の恩賜講堂のような建築はあるのか。

(堀住職)

講堂がある

(富島委員)

建築の評価としても宗教性という視点は重要。本質的価値の部分で、宗教施設としての一貫性をもたせたほうがよいのでは。

戦前戦中における国民教化資源としての価値とはなにか？今後、指定文化財にする予定があるということなのか？

(太田課長補佐)

指定のきっかけとなったのが建武中興 600 年記念祭の頃なので、そういった指定の経緯に関する物件も保存すべき史跡構成要素とするということであり、指定にするということではない。

(井上委員)

・文化庁のヒアリングはすでにしているか？

(鈴木主査)

3月中旬に実施する予定

(井上委員)

活用という部分を文化庁は重視している。教育委員会だけではなく他部署との連携という部分も考えておいた方がよい。

(横川委員)

議案書 42p 本文 3 行目、人工林が人口林になっているので修正を。

(鈴木主査)

了解した。

(山田委員)

近年文化財のいたずらによるき損事例が多い。防犯体制は大丈夫か？

(堀住職)

文化庁の補助を頂いてカメラ 27 台を設置した。抑止力にはなっていると思う。

その他報告

・河内長野市高向・上原土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査について

〈事務局説明〉

意見なし

・小野塚の五輪塔について

〈事務局説明〉

(北川委員)

小野塚(身方塚)と薬師寺(寄手塚)では建立年に100年以上の差があるが、これらはいつ頃からセットで考えられるようになったのか。史料等で確認できるのか。

「小野塚」という名称の由来は？日本の各地で、小野小町や和泉式部の亡霊が現れ、僧が供養することで成仏し、供養塔が建てられた。それらが「小町塚」「小野塚」「和泉式部塚」「式部塚」などと呼ばれている。この「小野塚」もそうした一例である可能性はないのか。

(太田課長補佐)

王ノ塚であったものがオノ塚となったとされる伝承があるが詳しくは不明。30年ほど前の聞き取り調査により小野塚と呼ばれていることがわかったが、文書資料で確認したものではない。今後調査を行う。

(北川委員)

小野塚はこの石塔が単独で存在するのか。それとも周辺には他にも石造物やお堂などがあつたりするのか。

(太田課長補佐)

小野塚の周辺にも江戸時代のものと思われる石造物がいくつかある。近くに長慶寺というお寺があつたとされているのでそれが由来かもしれない。

南河内特有の楠木正成に関する国民教化の一つの歴史であり、戦前の創作の歴史の一つであろう。

(富島委員)

風輪、空輪が組み合うものではないということであつたが、写真をみていると火輪も材質が違うように見える。これも本来は違う個体のように見えるがどうか。

小野塚の五輪塔に関して、史跡とするのか有形文化財で指定するのかは、調査次第でよいのではないのか？

(鈴木主査)

専門家の正式な所見が来ていないので現在不明であるが確認しておく。

・河内長野市の日本遺産事業の実施状況

〈事務局説明〉

(井上委員)

日本遺産は補助がある3ヵ年だけではなく、その後の自主的な取り組みが求められている。観光担当部署とも連携して、しっかり実施していく必要がある。

(太田課長補佐)

了解した。

・河内長野版歳時記プロジェクト中間報告について

〈事務局説明〉

(北川委員)

説明のあつた、時間軸について指摘したのは自分である。ただし、少し誤解があるようである。祭礼や民俗行事というのは、ややもすれば「昔からずっとこのとおりやってきた」などと説明されがちであ

る。けれども実際には時代とともにいろんな変化が生じている。そのような視点をもって調査記録を行って欲しい、市民にもそうした誤解を与えないように気をつけて欲しい、と言ったつもりである。

また、地域の歳時記の中には、実施主体が地域住民ではないものもある。伊勢大神楽や融通念仏宗の御回在などがその代表的事例である。伊勢大神楽の影響を受けて西代神楽が成立したことはこの地域の特色でもある。これら伊勢大神楽や御回在も地域にあっては重要な季節の風物詩になっている。こうした外部から訪れる人たちによる行事は、民俗行事の記録から抜け落ちやすいので、注意して欲しい。御回在については、大阪市平野区の総本山大念仏寺から来るもの以外に、「六別時」と呼ばれる中本山の御回在も行われたようである。河内長野市古野の極楽寺も「六別時」の一つであるから、極楽寺の御回在についても調べてみる必要があるのではないか。昭和 58 年に元興寺文化財研究所が『法会（御回在）の研究』という分厚い調査報告書を刊行しており、その中で「六別時」の御回在についても触れていたように思うので参照して欲しい。

（吉村学芸員）

了解した。

（中村会長）

映像は見てもらうのが大変。自分が行っている紀伊風土記の丘では、YouTube に動画を載せても無形民俗は再生数が少ない。一方で発掘現場の現地説明会は再生数が多い。ただ映像を作っても公開するだけではなく普及の方法というのが重要。

（山田委員）

映像は短いものでないと見てもらえないというのが大学でオンライン授業をしている中で実感としてある。また、和室が減少しているので特に民家の座敷（和室）で行われる行事を取り上げてほしい。

（吉村学芸員）

了解した。なるべく若い方向けに見てもらえるような工夫をする。

（中村会長）

意見が出尽くしたようなので、これで審議を終了する。